

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

す。「聞くに早く」とは人間関係で大切なのはまず他者の言葉に耳を傾けること、すなわち他者に寄り添って相手を理解することだと伝えていきます。「語るに遅く」とはわたしたちが自分の意見や考えを相手に押し付けてしまいがちであることを戒めています。そして、最後の「怒るのに遅く」は「聞くに早く」と「語るに遅く」を総合したものであり、「聞くに早く、語るに遅い人」は他者を理解しようとする開かれた姿勢でいるゆえに、「怒るのに遅い人」だと敷衍しているのです。このことから類推すると、その正反対の「怒るのに早い人」は、相手を理解しようともせず、人の話を聞くこともなく、自分の考えを押し付けて相手を自分の意のままにしようとしているために、絶えず苛立ちを抱え、怒りに支配されている人だということが理解できます。しかし、いくら温厚な人であっても、忙し過ぎると、気持ちに余裕がなくなり、つい苛立ってしまいますので、——わたしのよう「怒るのに早い者」だけではなく（反省！）——これは誰しものが気を付けないといけないことでもあります。20節は「怒り」が神の意に反するものだと語ることで、怒りから遠ざかるように呼びかけています。そして、21節は——正確に訳すと——「柔和さのうちに生得の言葉を受け入れなさい」と記されていますので、「怒り」の対極にある「柔和さ」こそが「聞くに早く、語るに遅く、怒るのに遅く」生きることを可能にすると伝えていきます。もっとも、そのような生き方を自分の力で実現することは不可能に思えるのですが、わたしたちに生得的に与えられている「神の言葉」に耳を傾けることによって、実現可能だという希望が語られています。わたしたちの日常生活や大学生活でも、聞くことを蔑ろにしてしまうことが多々あると思うのですが、相手に耳を傾けるとは、開かれた気持ちで相手を理解しようとする姿であり、他者を通して自分の非を認めたり、自分を変えられたりすることを厭わない生き方を求め続ける姿勢でもあります。

【秋期キリスト教教育強調週間】

本日の大学礼拝は2020年度秋期キリスト教教育強調週間の礼拝として行います。例年であれば、ゲストを迎えて特別の機会を持つのですが、今年新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、後学期の礼拝形式を踏襲し、動画配信によって聖書の言葉とメッセージをお届けします。

【次回の礼拝（動画の配信）】2020年11月3日（火）10時40分

聖書 ヤコブの手紙1章22-25節

奨励 「聖書の言葉を実践する」小林昭博（宗教主任）

【大学礼拝週報】2020年度第5号（後学期第5号）

2020年10月27日（火）午前10時40分

リモート礼拝（酪農学園大学 黒澤記念講堂）

【秋期キリスト教教育強調週間】

《大学礼拝》

聖書の言葉とメッセージ
(メッセージ動画の配信)

黙 祷

聖 書 ヤコブの手紙1章19-21節

奨 励 「聞くに早く、語るに遅く、怒るのに遅く」

小林昭博（宗教主任）

祈 り

黙 祷

【本日の聖書】ヤコブの手紙1章19-21節

19わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。20人の怒りは神の義を実現しないからです。21だから、あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。

【メッセージ】「聞くに早く、語るに遅く、怒るのに遅く」

キリスト教は「聞くに早く、語るに遅く、怒るのに遅く」という言葉を大切にしてきました。旧約聖書外典（続編）のシラ書5章11節に「耳を傾けるときには速やかに／しかし、ゆっくりと答えよ」という格言がありますので、ヤコブ書はユダヤ教の格言を参考にして新たな教えを提示していま